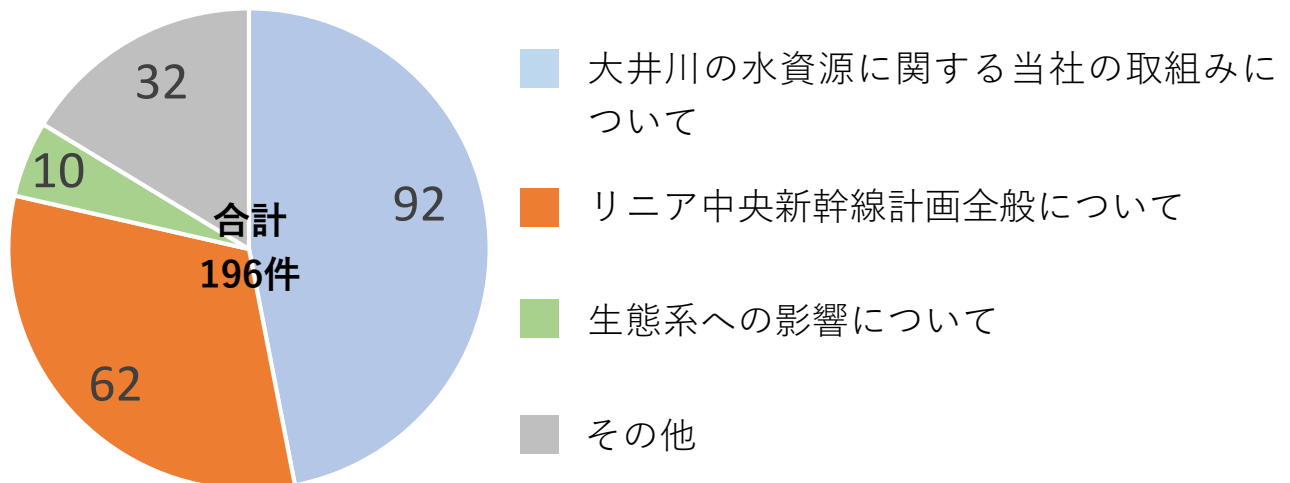


大井川の水資源に関するJR東海の実施について 皆さまから頂いたご意見・ご質問の 内容をお知らせします

2022年7月13日（水）から10月13日（木）までに、メール、電話、郵送により、84名の皆さまから合計196件のご意見・ご質問をお寄せいただきました。頂いたご意見・ご質問には全て、メールや電話等により個別に回答しています。ご意見・ご質問をお寄せいただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

お寄せいただいたご意見、ご質問の分類は以下のとおりです。

<ご意見・ご質問の分類>



大井川の水資源に関する当社の実施について92件、リニア中央新幹線計画全般について62件、生態系への影響について10件、その他32件でした。それぞれの分類について、P2、P3に主なご意見・ご質問の内容を記載しています。

そのうち、「大井川の水資源に関する当社の実施」への主なご意見・ご質問については、回答した内容を整理した上で P4以降に記載しています。なお、影響の回避・低減に向けた当社の実施については、静岡県と対話を行っているところです。

今後も大井川の水資源に関する地域の皆さまのご心配の声を受け止め、ご不安を払拭できるよう、真摯に取り組んでまいります。

主なご意見・ご質問

皆さまから頂いた主なご意見・ご質問は、以下のとおりです。「大井川の水資源に関する当社の取組みについて」の主なご意見・ご質問に記載の番号は、P4以降の「主なご意見・ご質問と当社の回答」の番号と同じです。

大井川の水資源に関する当社の取組みについて

○水資源利用への影響について

1. トンネルを掘ると周囲の地下水がトンネル内に湧き出る理論は理解できましたが、大井川の流量が減るとするのはどのような原理からでしょうか。
2. 農業を営んでいる身としては、農業用水がなくなるのではないかと心配しています。
3. トンネル工事により、毎秒2トンの河川流量が減少すると聞きますが、どのような根拠に基づく結果なのでしょう。
4. トンネル内の湧き水を大井川へ戻すとのことですが、その技術に関しては既に確立しているのでしょうか。
5. 地下水がトンネル内に湧き出ると、山の中の地下水位が低下しますが、中下流域の地下水の利用に影響はないのですか。
6. 大型の事業を行うと、十から数十年後に大きな影響が現れると聞きます。大井川下流域の地下水への影響が数十年後にあらわれることはありませんか。
7. パンフレットP4に「地下水移動量は地表に流れる流量（河川流量＋発電導水路の流量）と比べて0～1割程度」との記載がありますが、算出根拠と信憑性を説明してください。
8. 流域の生活用水及び産業用水は、リニア中央新幹線の建設工事に関係なく、長島ダムによって確保されています。

○工事中の一時的な期間における県外流出について

9. 「工事の一定期間、発電のための取水を抑制し、大井川に還元する方策」は、実現可能なのでしょうか。
10. 田代ダムにて取水した水は、水質が変化すると考えています。取水した水を大井川に戻すと、水質が変わってしまうのではないですか。
11. 山梨県境付近の断層帯を山梨県側から掘削する期間に、山梨県側へトンネル内の湧き水が流れ出ることが話題になっていますが、長野県側へは流れ出ないのでしょうか。
12. 山梨県側へトンネル内の湧き水が流れ出る期間であっても、解析では大井川の水の量は減らない結果となっていますが、なぜ、静岡県から県外へ流出するトンネル内の湧き水の量（県外流出量）と同量を大井川に戻す方策を検討しているのですか。

○発生土置き場について

13. 発生土置き場が崩壊し、大災害につながりませんか。

○モニタリング・補償について

14. モニタリングは、どのような体制や方法で行うのでしょうか。
15. 水に関わる損失は全て補償されるべきです。水資源利用への影響が生じた場合の補償については、どのように考えているのでしょうか。
16. 大井川の水を利用している農家や工場、水道事業者等の件数を把握しているのでしょうか。

○今後の地域への対応について

17. 電力会社は長きにわたり地域と向き合ってくれました。JR東海に同じことをしてほしいと申し上げているつもりはありませんが、将来、自分たちや子供たちがリニア建設工事を受け入れて良かったと思えるような事業にさせていただきたいと心から願います。
 18. パンフレットについて、技術論中心の文書だけでは説得力を持ち得ません。動画サイトを活用した情報発信を期待します。
 19. 今後、住民を対象とした説明を実施してほしいです。
 20. パンフレットを駅に配置し、ご意見・ご質問をお寄せいただく取組みは非常に良いと思います。
 21. リーフレットやパンフレットは、どこで手に入るのでしょうか。
 22. 意見や質問はどのように伝えれば良いのでしょうか。受付の締め切りはあるのでしょうか。
- 等

リニア中央新幹線計画全般について

- ・資料を見ました。企業として出来る最善の方策をしていると思います。開業に向けて邁進してください。
 - ・リニア中央新幹線が、多くの自治体・住民に歓迎される形で早く開通できることを望みます。
 - ・東京と名古屋への移動時間が短くなることはメリットだとは思いません。東海道新幹線で十分であり、リニアはいらないと思います。
 - ・私はリニアに反対です。農家の方々が困るようなことはあってはいけません。
 - ・私の住んでいる地域は過去に取水制限を経験したことがないくらい水資源には恵まれているところです。リニアのルートのために大事な水が減ることや自然環境の破壊がとても心配です。少し回り道でもルートの変更をお願いします。
 - ・リニアを走らせる際に生じる電磁波は、環境や人体への影響はないのですか。
 - ・もし、巨大地震が発生した際にリニアが静岡県内で停止した場合に、トンネルから脱出するルートはあるのですか。
- 等

生態系への影響について

- ・一旦、破壊した自然は元には戻らないという事を頭に置いてほしいです。
 - ・環境に優しく自然と共存する生き方が求められているなか、トンネルを作り、生き物へ影響を与えるのはどうなんだろうと思います。山に住む生き物や環境のためにJR東海が取り組んでいることはあるのか知りたいです。
- 等

その他

- ・静岡駅にのぞみを停めてください。
 - ・市道閑蔵線が話題になっていますが、どこにあるのでしょうか。
- 等

※ご意見・ご質問は適宜要約させていただいています。また、リニア中央新幹線計画全般については、当社ホームページ内「リニア中央新幹線サイト」にて、FAQを掲載しています。

リニア
中央新幹線計画
▶
全般のFAQはこちら



主なご意見・ご質問と当社の回答

以下、当社が2022年7月13日に公開したパンフレット「大井川の水を守るために 南アルプストンネルにおける取組み」を「パンフレット」という

主なご意見・ご質問について、当社が回答した内容を整理し、以下のとおりお知らせします。

1. トンネルを掘ると周囲の地下水がトンネル内に湧き出る理論は理解できましたが、大井川の流量が減るといのはどのような原理からでしょうか。

- ▶ 山の中には、雨や川の水が染み込み、地下水として蓄えられています。
- ▶ ここにトンネルを掘ると、山の中に蓄えられた地下水がトンネル内に湧き出てきます。
- ▶ その水はトンネルをつたって流れていき、何もしなければ、トンネル周辺の山の中に蓄えられた地下水が減り、それに伴い、地下から地表へ湧出し川の水となっていた水の量などが減るため、川の水の減少にもつながります（図1）。
- ▶ そこで、当社は、トンネル内に湧き出した水を直接川に戻すことにより、川の水が減らないようにします。
- ▶ なお、トンネル内の湧き水の量は図2のとおり時間変化をするものと考えており、トンネル掘削完了数十年後には安定すると考えています。

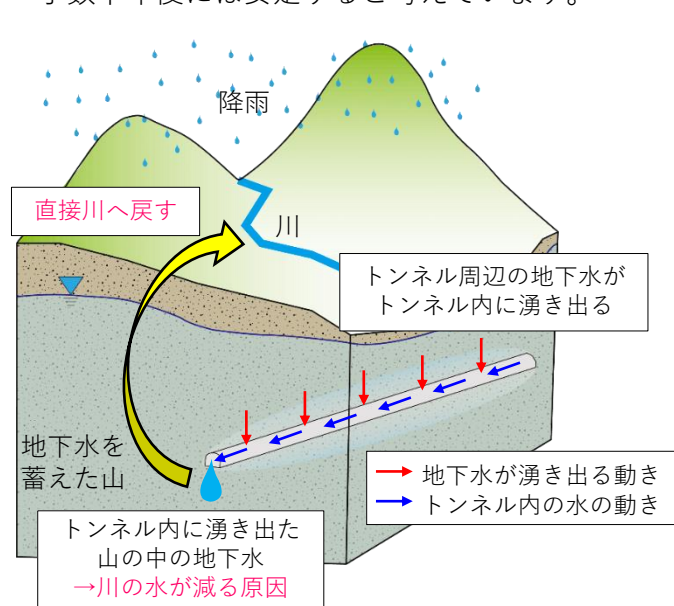


図1. トンネル内に湧き出る水を戻すイメージ

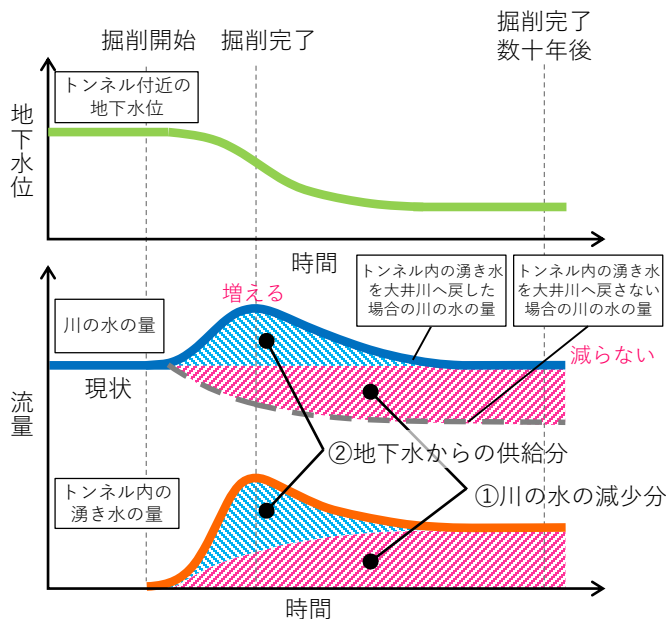


図2. トンネル掘削に伴う川の水の量の時間変化

2. 農業を営んでいる身としては、農業用水がなくなるのではないかと心配しています。

- ▶ トンネル内に湧き出る水を大井川へ戻すことで中下流域を流れる水の量が減らないようにします。

- ・ トンネル内に湧き出る水の戻し方や湧き水を戻すことによる効果のイメージについては、パンフレット P7、P8 に記載しています。（質問1：工事により、大井川を流れる水の量は減りませんか？）
- ・ トンネル内に湧き出した水を大井川に戻せない期間における対応については、パンフレット P9～P13 に記載しています。（質問2：トンネル内に湧き出した水を大井川に戻せない期間があると聞きましたが、すべての水を戻さないと川を流れる水の量は減りませんか？）



↑パンフレット

3. トンネル工事により、毎秒2トンの河川流量が減少すると聞きますが、どのような根拠に基づく結果なのでしょうか。

- ▶ トンネル工事による水資源への影響の程度を把握し、水資源の環境保全措置を検討するため、2013年9月に公表した環境影響評価準備書の手続きの中で水収支解析を行いました。
- ▶ その結果として、田代ダムより上流地点での河川流量が、トンネル掘削により、最大毎秒約2トン減少することを公表しました。
- ▶ この解析結果は、覆工コンクリート、防水シート及び薬液注入等のトンネル内に湧き出る水を減らす対策を、何も実施しない場合での結果です。
- ▶ 実際にはトンネル内の湧き水を減らす対策を講じるほか、トンネル内に湧き出る水を、導水路トンネルを通して榎島で大井川へ戻すことにより、中下流域を流れる水の量が減らないようにします。

- ・トンネル内に湧き出る水の戻し方や湧き水を戻すことによる効果のイメージについては、パンフレット P7、P8 に記載しています。（質問1：工事により、大井川を流れる水の量は減りませんか？）
- ・解析条件の概要についてはパンフレット P13 に記載しています。



↑パンフレット



図3.位置平面図

4. トンネル内の湧き水を大井川へ戻すとのことですが、その技術に関しては既に確立しているのでしょうか。

- ▶ トンネル内の湧き水を大井川に戻すための設備については、湧き水の量が水収支解析の結果と過去のトンネル工事における実績から仮定した最大値（本坑・先進坑・斜坑で3m³/秒、導水路トンネルで1m³/秒）であっても、湧き水を大井川に戻すための設備であるポンプや釜場の容量、導水路トンネルの断面積が十分であることを確認しています。
- ▶ ポンプを稼働する電力についても、工事中には電力会社の電気線から工事用の電気線を引き込むことで供給可能であることを確認しています。工事完了後は列車運行用に使用する当社の変電所から供給する計画です。変電所の受電は二重系であり停電が起きにくいようになっています。
- ▶ また、工事中、工事完了後も、停電が発生した場合に備え、予備の電源を用意しており、トンネル内の湧き水を確実に大井川へ流します。
- ▶ この設備計画については、国土交通省が設置した「リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議」（以下、「国交省有識者会議」という）にてご説明しており、国交省有識者会議の中間報告では、「JR東海の設定画面上は、現時点で想定されているトンネル湧水量であれば、工事期間中（そのうち、先進坑貫通までの約10ヶ月間）を除いて、導水路トンネル等によりトンネル湧水量の全量が大井川に戻すことが可能となることを確認した」とされています。

- ・トンネル内の湧き水を大井川へ戻すための設備計画の詳細は、「大井川水資源利用への影響の回避・低減に向けた取組み」（2021年12月）の第4章「工事着手前段階における取組み」 P4-51～4-64に記載しています。

回避・低減に向けた取組み→



5. 地下水がトンネル内に湧き出ると、山の中の地下水位が低下しますが、中下流域の地下水の利用に影響はないのですか。

- ▶ 化学的な成分分析および水収支解析の結果と、導水路トンネル等により中下流域を流れる水の量が減らないようにすることから、トンネル掘削による大井川中下流域の地下水量への影響は、河川流量の季節変動や年毎の変動※による影響に比べて極めて小さいと考えられます。

※1年間の変動（季節変動）ではなく、複数年間の変動のことを指します。

- ・化学的な成分分析および水収支解析の結果は、パンフレット P14～P16 に記載しています。
(質問3：工事により、地下水の量は減りませんか?)

パンフレット→



6. 大型の事業を行うと、十から数十年後に大きな影響が現れると聞きます。大井川下流域の地下水への影響が数十年後にあらわれることはありませんか。

- ▶ 大井川下流域で数十年後に影響が生じるとすれば、その前に上流域での地下水位の低下などの兆候が生じるものと考えられます。
- ▶ 工事完了後も継続して、上流域から下流域に亘り地下水のモニタリングを行うことにより、変化を検知し、時差を伴う影響が生じる可能性がある場合には、必要な対応をとります。

7. パンフレットP4に「地下水移動量は地表に流れる流量（河川流量＋発電導水路の流量）と比べて0～1割程度」との記載がありますが、算出根拠と信憑性を説明してください。

- ▶ 大井川の流況の全体像を把握するため、大井川流域の水循環量について降水量、蒸発散量、河川流量（ダム流入量）、地下水移動量（流出量）の概略の算定を行いました。降水量と河川流量は実測値より、蒸発散量は気温等から経験式を用いて算定しました。
- ▶ 神座地点下流側への地下水移動量は、以下のとおり算出しています（図4）。

- ・水循環を考えると、神座地点～井川ダムの範囲に流入する水の量と流出する水の量はつり合います。
- ・神座地点～井川ダムの範囲に流入する水の量は、降水量（A）から蒸発散量（B）を引いた量、井川ダム上流から流入する河川流量（C）、井川ダム上流から流入する地下水移動量（D）です。
- ・神座地点～井川ダムの範囲から流出する水の量は、神座地点から下流へ流れ出る河川流量と発電導水路の流量（E）、神座地点下流側への地下水移動量（F）です。

以上より、神座地点下流側への地下水移動量（F）

=降水量（A）+井川ダム上流から流入する河川流量（C）+井川ダム上流から流入する地下水移動量（D）-蒸発散量（B）-神座地点から下流へ流れ出る河川流量と発電導水路の流量（E）

- ▶ なお、算出方法の詳細は国交省有識者会議にてご説明しており、「大井川水資源利用への影響の回避・低減に向けた取組み」（2021年12月）の第2章「大井川流域の現状」P2-48～2-55に記載しています。



↑回避・低減に向けた取組み

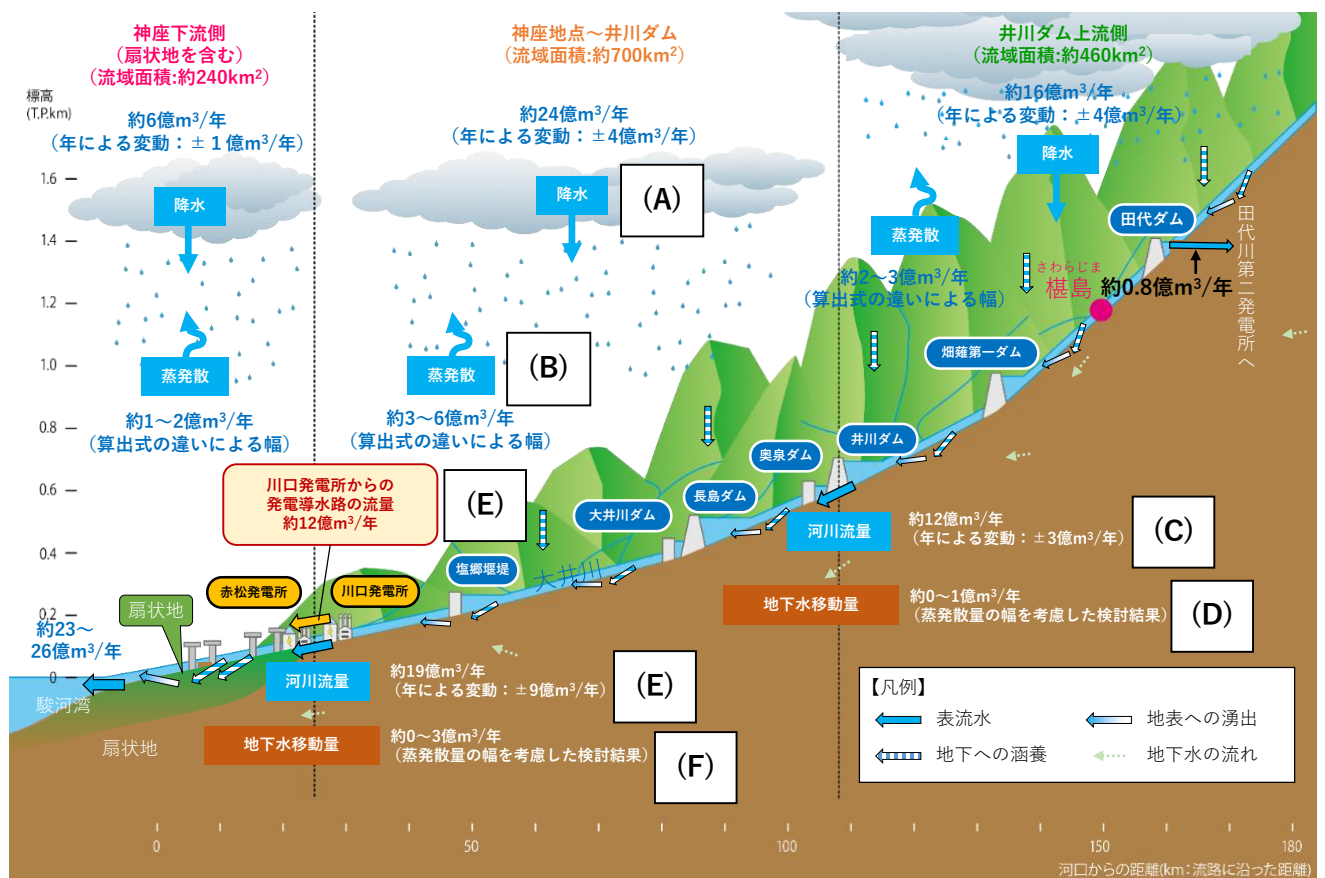


図4.大井川流域の水循環の概要図（現況の水循環量）

8. 流域の生活用水及び産業用水は、リニア中央新幹線の建設工事に関係なく、長島ダムによって確保されています。

- ▶ 長島ダムは、下流域の利水への安定供給を図るうえでも重要な役割を果たしていると認識しています。こうした利水の現状も踏まえ、長島ダムよりも上流の榎島において、トンネル内の湧き水を大井川へ戻すことで、中下流域を流れる水の量が減らないようにします。

9. 「工事の一定期間、発電のための取水を抑制し、大井川に還元する方策」は、実現可能なのでしょうか。

- ▶ 大井川流域で水資源を利用されている皆さまにご安心いただけるよう、工事の一定期間、田代ダムで県外流出量と同量の取水を抑制し、大井川に還元する方策の実現に向けて、関係者の理解を得たうえで、東京電力リニューアブルパワー株式会社様と具体的な協議を進めてまいります。
- ▶ 2022年4月26日の静岡県中央新幹線環境保全連絡会議第7回地質構造・水資源部会専門部会にて本案を提起し、2022年7月20日の静岡県中央新幹線環境保全連絡会議第8回地質構造・水資源部会専門部会にて、県外流出期間において田代ダムへの取水を抑制して大井川へ還元できる量がどの程度になるかについて、当社が計測している河川流量データを用いて検討した結果を、ご説明しました。
- ▶ 専門部会委員からは、毎日の河川流量や冬期における発電施設の維持に必要な流量等を基礎として検討するようにとのご意見を頂きましたので、東京電力リニューアブルパワー株式会社様の流量データを基に検討を深めてまいります。

10. 田代ダムにて取水した水は、水質が変化すると考えています。取水した水を大井川に戻すと、水質が変わってしまうのではないですか。

- ▶ 「工事の一定期間、発電のための取水を抑制し、大井川に還元する方策」は、田代ダムにて取水した水を大井川へ戻すのではなく、田代ダムにて取水を抑制する方策であるため、大井川の水質への影響はないと考えています。

11. 山梨県境付近の断層帯を山梨県側から掘削する期間に、山梨県側へトンネル内の湧き水が流れ出ることが話題になっていますが、長野県側へは流れ出ないのでしょうか。

- ▶ 長野県境付近の土被りは、国内では最大の約1,400mに達し、このような土被りが大きい箇所に工区境を設けることはトンネル工学上避けるべきとされていることから、工区境は長野県境付近の最大土被りを避けるとともに、静岡工区と長野工区の掘削工程を勘案し、静岡県内の連続する地質の切れ目としました（図5）。
- ▶ 以上より、長野県境付近は長野県側から上り勾配で掘削することを計画しており、この期間に限り、県境付近のトンネル内の湧き水が長野県側へ流れ出ます。

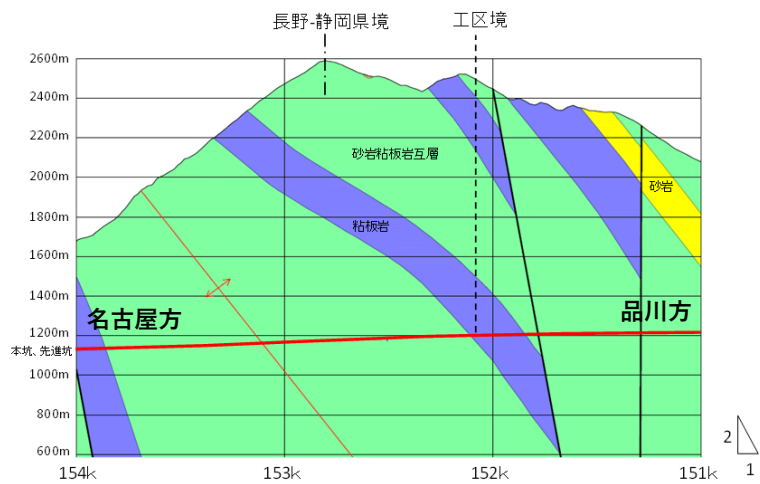


図5.長野県境付近の地質縦断面図

- ▶ 山梨県側と同様、この期間についても静岡県内の県境付近以外のトンネルの湧き水を大井川へ戻すことにより、長野県側へ流れ出る以上の量の静岡県内の山の中に蓄えられている量も含めた地下水がトンネル内の湧き水として大井川へ戻されるため、水収支解析では大井川の水の量は減らないと予測されています。

・ 県外流出量と同量を大井川に戻す方策については、パンフレット P9～P13 に記載しています。（質問2：トンネル内に湧き出た水を大井川に戻せない期間があると聞きましたが、すべての水を戻さないと川を流れる水の量は減りませんか？）



↑パンフレット

12. 山梨県側へトンネル内の湧き水が流れ出る期間であっても、解析では大井川の水の量は減らない結果となっていますが、なぜ、静岡県から県外へ流出するトンネル内の湧き水の量（県外流出量）と同量を大井川に戻す方策を検討しているのですか。

- ▶ 水収支解析では大井川の水の量は減らないと予測されていますが、解析には不確実性が伴うため、大井川流域で水資源を利用されている皆さまにご安心頂けるよう、静岡県から県外へ流出するトンネル内の湧き水の量（県外流出量）と同量を大井川に戻す方策を検討しました。
- ▶ 方策の実施に向けて検討を深めるとともに、関係者と協議してまいります。

1 3. 発生土置き場が崩壊し、大災害につながりませんか。

- ▶ 盛土はこれまでに道路、鉄道、空港など土木構造物として使用されてきた実績のある構造です。法令等で定められた技術基準に基づき、調査、設計、施工、管理を行い、安全性を確保します。
- ▶ ツバクロ発生土置き場では、地震時の安定性について海溝型地震（東海地震等）や内陸直下型地震（兵庫県南部地震等）などの大きな被害をもたらす地震を想定した場合でも、軽微な修繕で早期に復旧できる程度の変位であることを確認しています。
- ▶ また、排水設備については、「静岡県盛土等の規制に関する条例」では5年に1回の確率で想定される降雨強度以上で設計することが定められており、この降雨強度に対して2割程度の排水余裕を見込むこととされています。ツバクロ発生土置き場では、さらに安全側である100年に1回の確率で想定される降雨強度に対して2割程度の排水余裕を見込んで設計しています。
- ▶ なお、上記については、静岡県中央新幹線環境保全連絡会議 地質構造・水資源部会専門部会にてご説明を行っています。

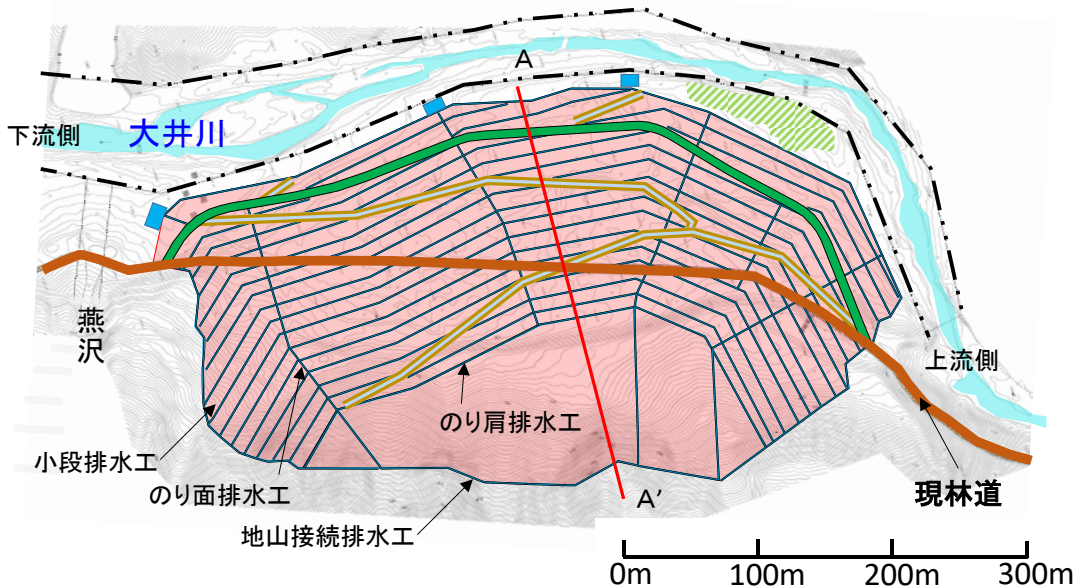


図6.ツバクロ発生土置き場の計画平面図

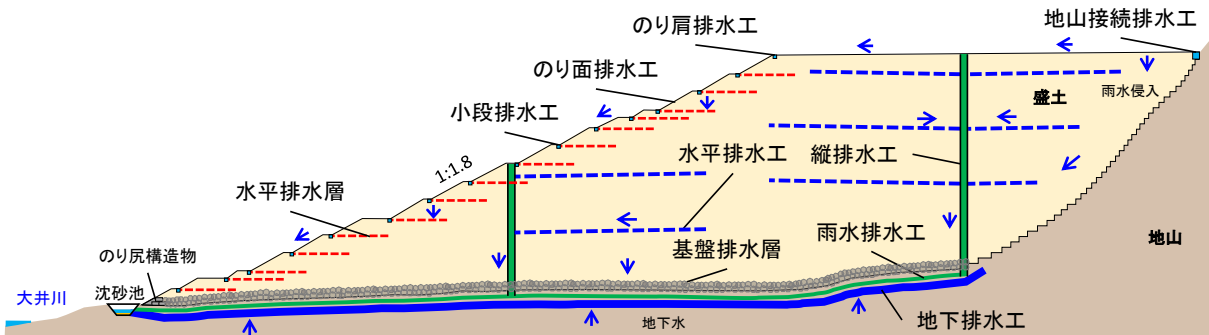


図7.ツバクロ発生土置き場の計画断面図

・発生土置き場に関する基本的な考え方については、パンフレット P17、P18 に記載しています。（質問5：豪雨等により、発生土置き場が崩れませんか？）



↑パンフレット

14. モニタリングは、どのような体制や方法で行うのでしょうか。

- ▶ モニタリングの結果を随時静岡県等へ報告したり、専門家に助言を頂いたりするための管理体制をつくります（図8）。
- ▶ トンネル掘削に伴う変化を早期に検知するため、川を流れる水、地下水、トンネル内に湧き出る水の量や水質等を、上流域から中下流域にかけてモニタリングします。
- ▶ モニタリングは、工事前の現段階から、工事中、工事完了後にわたり、実施します。
- ▶ 得られたデータは、静岡県や専門家等の関係者へ報告し、JR東海ホームページ等において公表します。

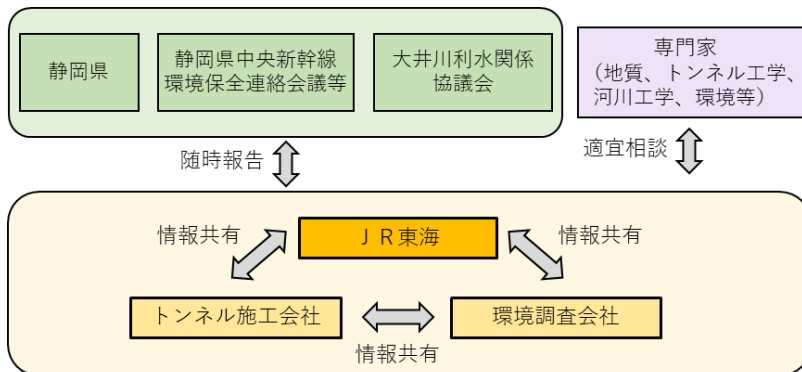


図8.管理体制の計画

- ・モニタリング地点の例については、パンフレット P21、P22 に記載しています。
(質問7：調査・計測（モニタリング）の結果は、公開されますか?)

パンフレット→



15. 水に関わる損失は全て補償されるべきです。水資源利用への影響が生じた場合の補償については、どのように考えているのでしょうか。

- ▶ 大井川の水資源利用への影響の回避・低減が基本であると考えており、それに向けた取組みを国交省有識者会議や静岡県中央新幹線環境保全連絡会議 地質構造・水資源部会専門部会において、ご説明してきました。現在も、影響の回避・低減に向けた当社の取組みについては、静岡県と対話を行っているところです。
- ▶ なお、当社は2020年3月6日に、大井川中下流域の水資源の利用に影響が出た場合の対応について、表明しています。具体的な内容は以下のとおりです。
 - ・万が一、水資源の利用に影響があり損害が生じた場合、中央新幹線建設工事の他の工区では、「公共事業に係る工事の施行に起因する水枯渇等により生ずる損害等に係る事務処理要領」（以下「公共工事の要領」という。）に基づき対応していますが、大井川中下流域については、トンネル掘削箇所から大きく離れており、水資源への影響が出るまでに長い時間がかかるので、とのご心配を寄せられていることから、補償の請求期限、補償期間等に関しては、「公共工事の要領」に拠らずに対応したいと考えています。
 - ・利水者の方から補償の請求をいただく期限については、「公共工事の要領」では、工事完了1年以内とされていますが、「工事完了から何年以内」というような制限を設けずに対応します。
 - ・補償費の算出の対象年数となる補償期間については、「公共工事の要領」では5年～30年が限度とされていますが、適切な対策を講じるため、予め限度を定めることはせず、30年を超えることも含めて、機能回復や費用を負担させていただくことを考えています。

- ・また、水枯渇や地下水の減少に備えて、工事前・工事中・工事後も、引き続き継続して河川流量、地下水位等を計測し、その変動を把握します。あらかじめ河川水、地下水の成分分析を実施して地下水がどこから来ているのかといった関係性を確認します。また、その後も継続して河川水、地下水の水質を確認します。
- ・計測したデータ等を基に、因果関係の有無について客観的に公正な判断を頂けるように、公的な研究機関や専門家の方の見解（以下、「見解」）が頂けるような仕組みを整えることを、検討してまいります。
- ・利用者の方から損害の恐れや実際に損害が生じた旨の申告があった場合には、速やかに工事との因果関係を調査し、前項の見解を求め、その結果を明らかにします。したがって、利用者の方に因果関係の立証を求めることは致しません。また、当社は、因果関係の有無について、その見解を尊重致します。

16. 大井川の水を利用している農家や工場、水道事業者等の件数を把握しているのでしょうか。

- ▶ 古くより大井川では、豊富な水量と急峻な地形特性を活かした水利用が進められており、昭和3年に田代ダムが建設されて以降、数多くのダム・堰堤などの取水施設が建設されてきました。
- ▶ 大井川表流水に係る取水施設の総数は現在では29箇所となっており、これらの取水施設から取水された水は、発電用水、農業用水、水道用水、工業用水などとして、流域内外で幅広く利用されていると承知しています。
- ▶ また、地下水については、主に工業用水、上水道に利用されていると承知しています。
- ▶ 引き続き、各利水団体の皆さまとお話させていただきながら、より詳細なご利用の実態把握に努めてまいります。

17. 電力会社は長きにわたり地域と向き合ってくれました。JR東海に同じことをしてほしいと申し上げているつもりはありませんが、将来、自分たちや子供たちがリニア建設工事を受け入れて良かったと思えるような事業にしていきたいと心から願います。

- ▶ 大井川中下流域の水資源を利用される方々にご迷惑をおかけしないことを最優先に、南アルプストンネルの建設にあたっては、地域の皆さまのご心配の声を受け止め、ご不安を払拭できるよう、真摯に取り組んでまいります。
- ▶ また、電力会社が地域の皆さまとどのように向き合っているのかについても、参考にしながら、当社の取組みに反映してまいります。

18. パンフレットについて、技術論中心の文書だけでは説得力を持ち得ません。動画サイトを活用した情報発信を期待します。

- ▶ 地域の皆さまに対して、継続して、当社の取組みを情報発信していきたいと考えています。
- ▶ 今後の情報発信に際しては頂いたご意見を踏まえ、より分かりやすい方法を検討してまいります。

19. 今後、住民を対象とした説明を実施してほしいです。

- ▶ 頂いたご意見を踏まえ、説明会等を開催できるよう、努めてまいります。

20. パンフレットを駅に配置し、ご意見・ご質問をお寄せいただく取組みは非常に良いと思います。

- ▶ 皆さまからご意見・ご質問をお寄せいただくにあたり、大井川の水資源に関する当社の取組みについてわかりやすくお示したいと考え、パンフレットを作成しました。
- ▶ ご意見やご質問をお寄せいただき、それらにお答えすることを通じて、ご理解を深めていただきたいと考えており、また、頂いたご意見・ご質問は今後の取組みや地域の皆さまへのご説明に活かしてまいります。
- ▶ 現在行っているこうした取組みを、今後も継続して実施してまいります。

21. リーフレットやパンフレットは、どこで手に入るのでしょうか。

- ▶ 大井川流域の焼津駅、西焼津駅、藤枝駅、六合駅、島田駅、金谷駅、菊川駅、掛川駅、愛野駅、袋井駅および静岡駅の改札内に配置しています。
- ▶ また、当社ホームページにおいても公開しています。

(URL : <https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/efforts/shizuoka/resources/>)



↑リーフレット



↑パンフレット

22. 意見や質問はどのように伝えれば良いのでしょうか。受付の締め切りはあるのでしょうか。

- ▶ メール、電話、郵送、中央新幹線静岡工事事務所へのご来訪にてお伺いしております。ご意見、ご質問をお伺いする期限は設けていません。

<皆さまのご意見・ご質問をお寄せください>

大井川の水資源に関する当社の取組みについて、引き続き、皆さまのご意見・ご質問をお寄せください。頂いたご意見、ご質問を、今後の取組みや地域の皆さまへのご説明に活かしてまいります。

○連絡先

東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線静岡工事事務所

- ・メールをご希望の方：以下のウェブページから、ご意見、ご質問をお寄せください。

URL : <https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/efforts/shizuoka/resources/>

ご意見
ご質問は
こちら ▶



- ・お電話をご希望の方：電話番号 054-685-1452
(受付日時：土・日・祝日・年末年始を除く平日の9時~17時)

- ・郵送や中央新幹線静岡工事事務所へのご来訪をご希望の方：
住所 〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町29番地ASTY静岡ビル3F
(ご来訪受付日時：土・日・祝日・年末年始を除く平日の9時~17時)